

シバザクラの病害診断と防除対策マニュアル

公益財団法人 農業・環境・健康研究所

国内で発生が認められているシバザクラの主な病害 3 種類（茎線虫病、株腐病、白絹病）について病原、診断のポイントおよび発生条件と防除対策について述べる。

【茎線虫病】

病原：*Ditylenchus dipsaci*

診断のポイント：草丈が低くなって萎縮し、開花が抑制される。葉は茎側から褐変して枯れ、茎の屈曲や肥大などの奇形症状が現れる（写真 1）。罹病した茎葉を水の中に入れしばらく放置すると、体長 1mm 前後の線虫が多数湧出する（写真 2）。

発生条件と対策：本病が発生した花壇は病原線虫が生残するため、新しい苗を植えつけると再び感染し発病する。また、感染親株から育成された苗によっても伝染する。米糠を用いた太陽熱消毒により土壌を消毒すると発病が抑えられた事例がある。苗は健全な親株から育成し種苗伝染を防ぐ。



写真 1 シバザクラ茎線虫病の病徴

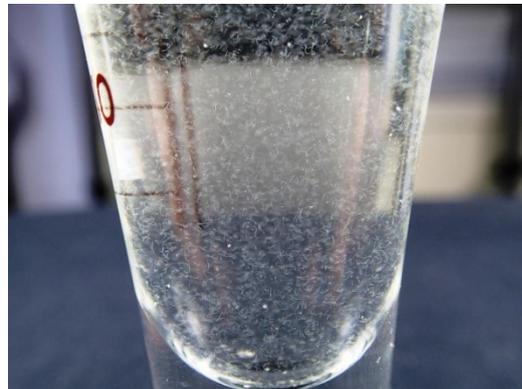


写真 2 罹病茎葉から湧出した病原線虫

【株腐病】

病原：*Rhizoctonia solani*

診断のポイント：葉の先端から淡褐色に変色し、やがて茎葉が白く枯上がる（写真 3）。発病した部位にはクモの糸状の菌糸体が肉眼でも観察できる（写真 4）。

発生条件と対策：梅雨や秋雨の時期に雨が降り続き、多湿で日照不足になると発生しやすい。発病した部分は除去し、日当たりと水はけをよくする。



写真 3 シバザクラ株腐病の病徴



写真 4 罹病部に認められる菌糸体

【白絹病】

病原：*Sclerotium rolfsii*

診断のポイント：梅雨時期に地上部の茎葉が枯上がって坪枯れ状となる（写真 5）。病斑部には絹糸状の菌糸束がみられ、褐色で粟粒状の菌核が形成される（写真 6）。

発生条件と対策：地上部が過繁茂になって多湿になると発生しやすい。水はけをよくし、養分過多にならないように肥培管理する。徒長気味の場合は適宜刈込みを行う。



写真 5 シバザクラ白絹病の病徴



写真 6 罹病部に認められる菌糸束

※本マニュアルは2019年度公益財団法人花と緑の博覧会記念協会助成事業として作成した。